

コラム

山手の花園と環境整備

永山 國昭

岡崎統合バイオサイエンスセンター・教授
(分子スケールナノサイエンスセンター兼任)



5年ぐらい前から土日を山手キャンパスの土いじりで過ごすようになった。その前は良く山に行っていたのだが、愛知、静岡の低山をほぼ行きつくした頃、気持ちがガーデニングに向き始めた。時間の節約と経費節減（車で往復300 kmを越えると当時は高速代とガソリン代で軽く1万円を越えた）が主な理由だったように思う。とにかくやたら石が多い土地なので、荒地をツルハシとシャベルで耕す所から出発した。真夏の昼にツルハシを振っていると頭が時々クラツとするのだが肥料をまき、種をまき、秋のコスモス、春のキンセンカを楽しみにせっせと通った。コスモス、キンセンカ、ポピーと季節の花のサイクルを4回ぐらい続けた頃、広大な山手キャンパスに1人で立ち向かっていることに疑問を感じ始めた。見ると2人の屈強の男がせっせと明大寺キャンパスの手入れをしているのではないか。そうか環境整備は岡崎施設課の本来の役割だよと気付いたのである。そこで3年前山手ロッジの土地交換問題が持ち上がったのをチャンスととらえ、ロッジにある庭木をキャンパス側に移植する話を含め、山手緑化計画を山手協議会に持ち込んだのである。事務センターも山手地区住人も山手の環境の悪さはわかっていたので提案は好意的に扱われた。まず駐車場と接する西空地に緑地帯が出来たのだが、2年足らずというのにすでに林の趣である。嬉しいことに山手ロッジから救われた4本の木々、楠、楓、榆、桜もしっかり根付いた。そしていよいよ念願の山手の花園化を申し入れたのが昨年秋である。これも山手協議会ですんなり許可され、第1弾として数年前に客土のすんでいる道路周りの花壇に20種種子配合を散布したのである。

その結果が添付の写真に見る今年の満艦飾花園である。岡崎3研究所にはガーデニング趣味のある人がどれくらいいるだろうか。この写真の花を言い当てられる人がどのくらいいるだろうか。この中には手前のヒメジオンを含め5種の花が咲いている。背景の華やかな黄色はオオキンケイギク（強力な外来草で駆除の対象）で下の方にひっそりと橙で咲いているのがハナビシソウ。丈の高いブルーはヤグルマギク、そしてピンク、赤、白と咲き誇っているのがゴテチャ、和名は色待宵草である。

さてこの山手花園化計画は始まったばかり。皆さんもお気づきのように広大な土地に更に客土が行われ、秋用配合種子が蒔かれた。はてさて次はどのような風情がたち現れるのか、ただひたすら秋が待ち遠しい。